

令和5年度 横浜旭陵高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年5月27日（土）10:00～12:00
- 2 場 所 県立横浜旭陵高等学校 B棟1F 多目的室
- 3 出席者 学校運営協議会委員：9名（欠席者：若月芳浩様 大和田伸也様 山田綾香様）
学校関係者：11名（管理職・総括教諭他）

4 内 容

○学校運営協議委員 委嘱

○出席者紹介

○各協議委員の自己紹介

○会長・副会長選出

会長 PTA会長渡邊様

副会長 校長

(1) 校長あいさつ

令和5年度学校運営協議会協議員を快く引き受けていただきありがとうございます。

本校は令和8年度で、横浜旭陵高校としての役目を終え、県立旭陵高等学校と再編統合をして新しい学校となります。そのような中で、今回協議員をお願いした経緯についてお話しします。

教育課程上（Zoology）の関係性から、麻布大学の小玉先生とズーラシアの副園長の久保さまに依頼をしています。本校生の進路が多様（進学を希望する生徒、就職を希望する生徒、公務員を希望する生徒）であり、しっかりとサポートをしていく必要があります。本校の支援のあり方が本当に適切なのか見ていただくためにも十亀様に協議員をお願いしました。

◎令和4年度の学校評価について

評価の流れは、本校から目標を提示し、それに協議員の方からコメントを頂いたのち、教育活動に活かしていきます。年度末には振り返りを行い、それに対してもコメントをいただきます。

（生徒指導・支援について）

本校では、認知行動療法を教育活動に取り入れることで、自己肯定感を高める取り組みをしてきました。これは県内の高等学校ではあまり取り上げられていないテーマでもあります。

（成年年齢の引き下げについて）

法の意識を伝えていくことで、大人になる準備をしてほしいと考えています。地域の皆様にご迷惑をおかけする生徒もいましたが、一朝一夕には行かない部分もあるので、粘り強く指導していきます。

（生徒の進路について）

進路指導のところですが、本校のグランドデザインが教育活動すべての視座になっています。高校は社会につながることができるような場でなければならないという考えのもと、キャリアの時間をメインで教育活動を実施しています。

（部活動について）

地域との協働について、部活動は決して盛んとは言えませんが、全国を目指す生徒や生徒会活動の中で、地域との協働も意識していきたいと考えています。

また学校管理・学校運営について、日頃から心を砕いて、生徒の安心安全を考えております。前年度も大きな事故等なく終わることができてホッとしております。しかしこれは、できて当たり前のことでもあるということをお忘れずに今年度も取り組んでいきたいと思っております。

◎令和5年度の学校目標について

今年度の変更点は「1年間の目標」の②です。授業を通して生徒の自己肯定感を結果的に高める体制を作り上げていきたいと思っています。

昨年度との変更点は、授業の計画と実践の両方に専門家の方に携わっていただくという点です。

また生徒指導上でも自己肯定感と自己有用感を高めることを目標としています。自己肯定感と自己有用感はそれぞれに異なる定義がされています。2017年頃世界的に研究が行われたという経緯のあるものです。

(2) 各グループからの報告

(研究開発Gリーダー東南総括教諭)

授業改善と授業力の向上を主な業務としています。生徒がわかったと思える授業づくりに取り組んでいます。自己肯定感を育み、個別最適な学びに結びつけることを目的としています。

年間の取り組みのテーマは大きく2つあります。1つ目がICTなどを利活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な改善を進めることで生徒の学びの意欲向上を図りたいということ、もう1つは多様な認知特性を考慮して生徒の学びに合わせた授業づくりをしていきたいということです。

授業見学月間と生徒による授業評価によって、授業のあり方の共有と現状の把握に努めます。夏には職員向け研修を予定しています。認知に関して学びを深め、それを踏まえた授業づくりをし、実際に授業実践をするということを考えています。

(学事情報Gリーダー大久保総括教諭)

教育課程全般を主な業務としています。今年度は新旧学習指導要領の混在が最も多い年度であり、科目名が新旧で同じこともあれば違うこともあります。また、評価の観点も異なります。間違いが無いように授業を実施し、成績をつけることができるよう留意していきます。今年度は講師の先生方も多く勤務しておりますので、しっかりと情報共有をしていきたいと考えています。

また外国に繋がりのある生徒も年々増えてきていますので、そういった生徒にも適切な指導支援ができるようにと考えています。学校設定科目「日本語」を設定し、日本語能力検定N2合格を目指して取り組みを進めていきます。

入試については、選抜方法や出願方法に大きな変更があります。今年度が最後の入試選抜ということもあり、ミスなくやり遂げたいと考えております。全職員で連携の取れるような体制づくりをしていきます。

(進路支援Gリーダー千葉総括教諭)

人と社会と未来につながる力の育成を目標にしています。

キャリアの時間を用いて3年間を通じて生徒のキャリアに関する力を養っています。学習面、生活面、課外活動を地域の皆様とも連携して生徒の進路実現の支援に繋げていきたいと思っております。

今年度ですが、3年生188人在籍していますが、大学進学、専門進学、就職でそれぞれ60人前後の希望が出ています。3年生では現在、分野ごとに進路実現のための学習をすすめています。1、2年生では全職員でキャリアカウンセリングを行っており、これによって今後の進路を考えていく力を育成しているものと考えております。他グループとも連携して生徒の進路実現に向けて努力していきます。

(生徒成長支援Gリーダー山森総括教諭)

生徒指導、生活指導、教育相談を主な業務としています。

生徒指導の件数は減少傾向にあります。一方で、規範意識の低い生徒も多くいるため、HRの時間や全校集会、放送などで生徒の規範意識を高めようとしています。学校の立地に関わって交通安全の指導も必要だと考えています。教育相談についてはSCとSSWに毎週来校していただくことができる状況があるので、生徒だけでなく保護者の方にもカウンセリングの場を提供できています。必要に応じて外部機関とも連携しています。

職員の間でも、1～3年次までの生徒について、生徒の様子を共有することを心がけています。

生徒の進路実現に向けて、彼ら自身が生活を整えることを支援していきたいと考えています。

(自主活動支援Gリーダー伊藤総括教諭)

生徒の主体的な活動をサポートすることが主な業務です。

文化祭については、コロナ前に少しでも近づけるように努力しているところです。また校内ボランティア清掃活動を今年度は毎月実施しています。20数名の参加があり、雰囲気は醸成されてくれば、地域にも目が向くと思いますので、一層推進していきたいと考えています。生徒が外に出ていく機会が広がっていけばと考えています。

(総務管理Gリーダー原教諭)

来年度入学してくる23期生が最後の入学生となります。合わせて広報活動も最後となりますが、その後も本校に関する情報提供はしていきたいと考えています。

防災について、コロナも完全に収束したとは言えず、今後も地域と協力して安全な学校づくりをしていきたいと考えています。

休憩 11時より再開

(3) 〈協議〉

「『学校目標』及び今年度の本校に期待する取組みについて」委員の方からご質問、ご助言

(小玉様)

2つ質問します。自己肯定感自己有用感のお話がとても印象に残りましたし、同時に全国的課題と認識しています。本学でも学生はメンタルヘルスがうまくできず、大学を中退してしまう生徒も増えてきています。高等学校で、具体的に生徒さんのどのような現状があることからの本課題設定となったのかご教示ください。

2点目は教育課程について、閉校に向けてのソフトランディングのようなカリキュラム上の準備等はお考えでしょうか。

(校長)

自己肯定感について、本校の生徒の現状をお答えします。

校内情報交換会議を年3回開催していますが、課題に対してチームで解決していくというのが本校の方針です。

着任以来感じたのは、中学校までに大人にどう対応してもらったかという部分です。自分のことがあまり好きではないと言う生徒の発言がありました。そこで疑問が大きくなりました。課題は一人ずつ異なっており、個にカスタマイズした支援が必要であると考えています。我が国においては昨今あまりにも自死が多いという実態があり、本県でも高校生の自死が増えてきています。県や教育委員会の統一した具体的な取組みはできていない状況です。

本校では熱心な教員が集まっているので、高校生が生き生きとした学校生活を送れるよう、学校生活の中で最も大きな時間、比重を占める「授業」においてこの問題解決を試みたいと考えたことによります。閉校の時期には、新旧混在の問題は解決しています。生徒を支えられなければ学校ではないので、県教育委員会には教員の人数を確保する要望をすでに行っているところです。

(大久保総括教諭)

少人数指導が本校の特色の1つです。単位制、講座制の学びを提供しています。職員の人数が減ると、この体制維持が困難となるので、校長から県へ要望しているところです。

(久保様)

たいへん幅広い教育活動が行われていることに敬意を評します。自己肯定感、自己有用感というような言葉は、小学校でもよく聞く言葉で、本日また聞いたことで、今の子供達にとって大変重要な課題であると気づかせてもらいました。具体的な取組みは大変難しいことだと認識しています。閉校にむけて、先生方のご負担が大きくなって心身を損ねることのないようにしてください。

(十亀様)

昨年8月今の工場に着任し、そこで働いてもらっている旭陵高校の卒業生を見ての感想をお話します。

コミュニケーションを取るのが苦手な方が増えているという印象です。これは離職につながる可能性が高いです。工場は製造がメインですので、コミュニケーションを取ることなどの人間性を育むという面が少し弱い印象があります。

働く人の中には様々な人がいるが、きつい言い方をされたときに耐えきれない、ということがあります。仕事なので、報告や連絡などをしっかりしないといけませんが、それができず、挫折してしまうといった人が増えているように感じます。発表をすること、正確に伝えることも苦手という人が増えているという印象もあります。弊社としても教育を充実させていきたいと考えています。

(渋谷様)

昨年の地域貢献デーでの活動は大変楽しめました。みんなと一緒にやるということが大切だなと感じています。

コロナを経て、仲間と時間を過ごすことの意味を各年代が感じている気がします。元気をなくしている高齢者の方もいることから、高校生の皆さんとともに活動し、学校に協力できる部分は、協力することで我々も元気をもらえるので協力していきたいと思います。

また今と比べると昔は現場主義であったように感じます。まず体験するという現場主義を子どもたちなりに感じてもらい、子どもたちが将来やりたいことを見つけてもらいたいと考えています。どこへ就職するかではなく、何がやりたいか、将来誰のために尽くしたいか、ということを考えるとう進路は見えてくると思います。

(校長及び大久保総括教諭)

今年度9月4日か5日を地域貢献デーとして検討中です。また具体的な日程が決まりましたら、お伝えします。

(渡邊様)

ICTの利活用について、次年度生徒が入ると生徒全員が一人一台端末になると思います。今の時代は何をするにしても端末でできてしまいます。

オープンキャンパスで訪問した専門学校では教科書を配付せず、端末で教科書のデータを用いるということでした。パソ活などの検定に合格しておくこと、進路活動に有利になり、生徒の自信にもつながると考えました。校内の教育の一環として外部試験を受験することができるのは大変ありがたいです。世の中に出てからもそういった力が必要になってくるので、ぜひ取組みを続けてほしいと思います。

認知行動療法については、漫画を使った授業を学生時代受けたことがありました。お話を聞いていると少し似ていると感じます。認知に関連するゲームもあるようです。

(4) 事務連絡

第2回学校運営協議会は11月18日(土)10:00、第3回学校運営協議会は3月9日13:30から予定しています。